Anchor's
PERSON

株式会社　HYM
代表取締役

小林　弓馬

かねてより経営者を志していたという小林社長。
その道を自身の道と決め、ビジネスのことや経営のことを勉強し、
自身に足りなかったコミュニケーション能力を鍛えることにも力を尽くしてきた。
不得手なことでも諦めず、研鑽を積んできた社長。
そうして今、一人の経営者として力強く歩むその後ろには、
実直に切り拓いてきた、努力の道があった。

「まだまだ足りない自分ですが、少しでも、誰かの力となりたい」

© 2021 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.

Peter Pan ぴーたーぱん

株式会社 HYM

愛知県刈谷市半城土町乙本郷 127 番地 2
URL：http://peterpan.nagoya/

人との出会いに感謝を抱きながら その思いに報いるために日々尽力

不用品の回収・買い取りから遺品整理・生前整理などを手掛ける『ぴーたーぱん』。愛知・岐阜・三重の東海3県をカバーし、不用品の回収については1点からでも対応しているという。順調に業績を伸ばしているが、その裏には、小林社長と奥様である小林取締役の、たゆまぬ努力があった。本日は、タレントの布川敏和氏が運営会社である『HYM』を訪問し、お二方にお話を伺った。

――まずは、小林社長の歩みからお聞かせ下さい。

（弓） 長野県諏訪市出身です。若いころはカーレーサーとして活動をしており、ドライバーオーディションを経てスカウトされてここ愛知県に移りました。しかし、20代半ばでその道を断念することに。当時は若かったこともあり、ただ速く走れば良いと思っていたのですが、現実は甘くなく、資金繰りに苦労した結果でした。その経験から、ビジネスや経営といった経済を回すことに関心を持つようになり、本を読むなどして勉強するようになったのです。

――そのころには、独立を意識されていたのですか。

（弓） 実は、カーレーサーだったころから、自分でゼロから何かをやりたい、と思っていました。それで、トラックのドライバーとして働きながら、サイドビジネスに挑戦したのです。しかし、私はあまりコミュニケーションが得意ではなく、サイドビジネスは上手くいきませんでした。そこで、改めて本を読んだり、セミナーに参加したり、色々な方とお話ししたりしながらコミュニケーションを取る練習をしたのです。

――努力を重ねられたのですね。

（弓） そんな最中、リーマン・ショックの影響で会社の業績が悪化し、退職することに……。どうせ転職するなら、今度は人と接する仕事をしてみようと、医薬品の営業職に転身。それが、ひとつの転機となりました。最初は、以前読んだ本に書かれていた、「一人ひとりのお客様を大切にすること」を第一に、とにかくまずは続けてみよう、という気持ちでしたね。どんなに小さなご依頼でも、一つひとつを大切に応えているうちに、気がつけば栄養ドリンク部門で、3,000人中3位という成績を収めることができました。また、出会いにも恵まれまして、現在当社で働いてくれているメンバーの一人は、その当時先輩だった方なのです。

布川 敏和（タレント）

独立に際して小林社長は、「家族がおり、正直不安がなかったと言えば嘘になります」としつつも、「上手くいく自信はありました」とおっしゃっていました。奥様は、そんな社長の思いを感じて、背中を押されたのだと思います。これからも夫婦で支え合いながら、頑張って下さいね。

――それは嬉しいですね！　実直な社長のお人柄あってこそだと思います。

（弓） いえいえ、人との巡り合わせの結果です。当社の設立も、10年ぶりに友人と偶然再会したことがきっかけでした。彼が不用品の回収や買取、引越しなどを手掛けていることを知り、話を聞いているうちに、昨今の空き家の増加も相まって、今後も需要が伸びていくだろうと思ったのです。それで、医薬品の営業職を辞めて、友人のもとで1年ほど経験を積んだ後、5年前に独立に踏み切りました。

――なるほど。しかし、結果も出されて安定したお仕事から一転するわけですよね。奥様は反対されなかったのですか。

（小） 私はむしろ賛成でした。主人はとても努力家ですから、大丈夫だろう、と。私自身は看護師として長年勤めていたため、いざという時には自分が何とかすれば良い、とも思っていましたね。実際は順調に業績が伸び、午前中は看護師の仕事をしつつ、午後からは主人の事業を手伝うようになりました。そして今では看護師を辞め、こちら一本となっています。

（弓） 妻は私よりもずっとしっかりしていて、本当に助けられました。仕事柄重いものを持つ機会が多いのですが、ある時妻の手を見ると、以前よりも太くごつごつしていて……。申し訳なさを感じると共に、感謝の思いが強くなりました。

――二人三脚で歩んでこられたわけだ。本当に素敵なご夫婦でいらっしゃる。

（弓） 妻をはじめ、多くの方に助けられて今があると、つくづく思います。現在当社では、引越し業をスタートするために許認可手続きを進めています。もともとは、引越し会社さんと提携して、引越しに際して出た不用品の買取を当社が手掛ける、というかたちを取っていたのです。その引っ越し会社の社長は、「許認可を受けて、うちをぜひ手伝ってほしい」と言って、トラック3台を安く譲って下さるなど、本当に良くしてくれて……。競合が増えるのを良しとしない方も多いと思いますが、その懐の深さに、感謝と尊敬の念を抱きましたね。ありがたい限りです。

――社長の直向きに努力されている姿を見て、支えになりたい、共に働きたい、そう思われたのでしょうね。社長であれば、これからも着実に成長し続けられると思いますよ。

（弓） 少しでも多くの方々のお力になれるよう、今後も尽力していきたいですね。無事許認可を受けられた暁には、引越し作業と不用品の回収や買取をワンストップで手掛けられるようになります。お客様も、それぞれ違う業者に依頼する手間やコストが省けるので、お忙しい引越し作業を円滑にするサポートにもつながれば何よりですね。

（小） もう一つ、今後展開予定の新規事業として、訪問看護事業があります。実は、私のほかにも従業員の中に元看護師がおりまして。看護師の資格を持った従業員がせっかく二人もいるのですから、それを活かした事業を、と考えたのです。こちらに関しては、来年を目処に着手していきたいですね。

（2020年11月取材）

取締役
小林 小百合

代表取締役
小林 弓馬

▶▶▶『同志会』の仲間たちと共に、地域の人々の「どうしよう」に応える

▼空き家問題や遺品整理・生前整理など、現代社会が抱えている問題に取り組んでいる小林社長。それだけでも立派な社会貢献・地域貢献と言える事業であるが、社長は現状に満足することなく、地域の仲間と共に、社会と地域への貢献を目的とした団体で活動を行っているという。その名も、『同志会』。それぞれ得意分野を持つ同志たちが集まって、「どうしよう」と困っている人たちのお手伝いをするために結成された団体である。「同じ志を持つ仲間」という意味の「同志」でもあり、「どうしよう」の「どうし」でもあるというユニークなネーミングだ。

▼地域の経営者たちが主に参加しており、その分野はリサイクルや不動産、整骨院、飲食、ファッション、建設、IT関連、広告、保険、自動車関係など様々。活動のことを「キャッチアップ」と表現し、お互いに「キャッチアップ！」と声をかけあいながら、障がい者支援や社会福祉、環境保全、被災者支援、リサイクル・リユースなどに取り組んでいる。

▼社長は『同志会』の発足と同時に入志。そのきっかけは、同会の広報委員長を務めており、自身も引越し会社の経営者である片山社長に声をかけられたことだった。片山社長は社長を「努力の人」と称し、「不用品とともに『幸せ』も運べるスペシャリスト」と語る。一つひとつの仕事に直向きに取り組んできた社長の隣には、共に歩む仲間たちの姿があった。

© 2021 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.